

大阪インターナショナルチャーチ： ブルース・アレン牧師
ルカ 1.26-55 21世紀のキング・ジェームス版(注記を除く)

2023/12/31

人類の素晴らしい救出と新年にむけて。

OIC さん、おはようございます、そして新年にむけて。

OIC 礼拝チームと私は、エジプトのファラオの兵士たちとエジプトでの 400 年間の捕虜からのイスラエルの人々の救出を祝うモーセの歌を歌いました。アメリカでは、クリスマスシーズンの直後に自殺率が最も高まると心理学者が報告しています。自分の感情を裏付ける真実がないのに感情だけを抱いている人は、深刻なうつ病になる傾向があります。クリスマスにおける神の真の贈り物であるイエス・キリストへの信仰のないクリスマスは、楽しい音楽が終わった後に空虚な気持ちを残します。キリストの代わりに、休日としてのクリスマスそのものが崇拜されることがよくあります。メディアは多くの人がクリスマスの幸せを期待するように煽ります。これには、神の言葉と神の御霊によってのみ見出される神の知識の基礎がありません。近づくクリスマスへの期待感を高める「クリスマスソング」がたくさんあります

本当に新しく生まれ変わったクリスチャンでも、こうした感情を多少なりとも抱くでしょう。しかし、真のクリスチャンは、楽しいクリスマス休暇をただ待っているわけではありません。彼らはまた、復活した主の地上への再臨を待っています。

モーセの歌は、イスラエルの神である主が差し伸べられた御手で民を救い出したときの、安堵感に満たされた喜びの爆発でした。彼の多くの奇跡には、彼の民が紅海を渡って渡れることが含まれていました。そして海を通常的位置に戻します。エジプト軍はイスラエルを追って全軍溺死した。モーセがそのような爆発的な喜びの感情を支えていたのは、アブラハム、イサク、ヤコブの神との密接な関係にありました。聖書は、(出エジプト記 33.11) で私たちにこう語っています。主は人がその友と語るように、**顔と顔を合わせてモーセに語られた。**

私はこのメッセージにモーセの歌とマリアの歌の両方を選びました。これら神の忠実な僕は二人とも、救いをもたらす全能者の奇跡的な力を目撃していました。モーセ、イスラエルのために。マリア、ヨセフ、幼子イエス、そして自分自身の安全のため、そして最終的には人類のためであると悟りました。マリアの基礎となったのは、十代の少女としてアブラハム、イサク、ヤコブの神に忠実な人生でした。モーセと同じように、彼女もまた、全能者の慈悲、恵み、力についての彼女の最大の想像を超える奇跡を行うのを見ることができて光栄に思うでしょう。

私たちが今歌ったこの賛美の歌は、聖書に記録されているモーセの歌（出エジプト記 15.1-2）とほぼ同じです。

1 モーセとイスラエルの民は主を賛美してこの歌をうたった。

主に向かってわたしは歌おう。

主は大いなる威光を現し

馬と乗り手を海に投げ込まれた。

2 主はわたしの力、わたしの歌

主はわたしの救いとなってくださった。

この方こそわたしの神。わたしは彼をたたえる。

わたしの父の神、わたしは彼をあがめる。

1970年代にアメリカのジーザス運動とカリスマ運動で人気がありました。 モーセが感じたのと同じように、マリア（またはミリヤム）の心が祝賀の歌を感じたのを感じたとき、私はこれらの神の忠実な僕たちの類似点を見ました。 今週、「キリスト降誕の物語」と呼ばれる映画の最後のシーンをもう一度見たときに、このテキストまたはマリアの歌について説明するか釈明するかを選択するインスピレーションが湧きました。 映画では、マリアとヨセフ、赤ん坊のイエスがヘロデ王からエジプトに逃げる様子が描かれており、マリアはよく知られた独り言や詩を語ります。 今朝ここにいる皆さんのうち、映画『キリスト降誕の物語』を見た人は何人いるのでしょうか?.....

この映画は歴史的な自由を多少取っていますが、実際にはマリアの歌、あるいはマニフィカトとも呼ばれるこの歌は、彼女がエジプトに入国したときではなく、実際には洗礼者ヨハネの両親であるゼカリヤとエリザベスの家で歌われました。 故郷のナザレで天使ガブリエルが彼女に語った言葉を、彼女が自分の心の奥底で本当に信じたとき、神を崇拜しました。 これに至る出来事は（ルカ 1.26-38）に見られます。

朗読（ルカ 1.26） 26 六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。 27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。 28 御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。 29 この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。 30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。 31 見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。さて 6 か月目に、天使ガブリエルは神によってガリラヤのナザレという町に遣わされました。 32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、 33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。 34 そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましようか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。 35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。 36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。 37 神には、なんでもできないことはありません」。 38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。

これらの聖句には霊的な肉や高タンパク聖書がたくさんあります。しかし、私は新年に向けた私たちの大いなる安心についてのメッセージとして、これらの聖句から釈明または引き出すためにいくつかのポイントを選択しました。聖書はイエスの母マリアが処女であったことを明確に強調しています。(27 節) 処女の名前はマリア (ミリヤム/ヘブライ語) でした。神の謙虚な僕たちが、自分たちが神にとってどれほど重要であるかを理解するのがいかに難しいかに注目してください。(29 節) ガブリエルの言葉に対するマリアの反応は次のとおりです。あなたは女性の中で祝福されています、そして (v. 29) …彼女は悩みました。(v. 32) 天使のメッセージは、彼女の息子の名前であるイエスを宣言しました。これは、彼の民と彼の神性、つまりいと高き者の子を救うという彼の使命でした。そうすれば主なる神は彼に父ダビデの王座を与えられるであろう。この「玉座」は、聖書を信じるすべてのユダヤ人によって、単なる一時的な玉座ではなく、永遠の玉座であると理解されてきました。(v. 33) で述べているように、……ヤコブの家を永遠に統治し、彼の王国には終わりがありません。メアリーは畏怖の念を抱いていたが、処女が息子を産むという人間的な疑問を妨げなかった。天使ガブリエルは、(35 節) で真実の答えを与えただけです。聖霊があなたに臨み、至高の意志の力があなたを覆うでしょう。したがって、これから生まれる聖なる方も神の子と呼ばれることになります。」これがマリアの使命でした…神の母の子になることです。

このように聖書は、決して不明確ではない明確な事実においてイエスを神性としています。もちろん、聖霊は神の使徒たちを通して、イエスが神と同等であるという他の明確な発言を吹き込んできました。特に明確なのは、ギリシャ語の原文 (ヨハネ 1.1) 初めに言葉があり、言葉は神とともにあり、言葉は神でした。(ムンス)

(v. 36) では、天使がマリアに無関係な情報を加えているように見えることがわかります。しかし、神は間違いを犯しません。不妊の女性からの超自然的な子供の誕生、エリザベスは、神がマリアへの御言葉を成就したという具体的な出来事やしるしによって、マリアの信仰を奨励することでした。

要点 #1

神を信じる忠実な僕は謙虚な自信を持っています。適切な謙虚さを失わずに成功をもたらすことができるのは神だけですが、成功は主への信頼を高めることができます。また、神は人類に対する最大の慈悲と愛の行いのために、謙虚な僕たちを選びます。神は、子供が父親に尋ねるように、私たちが神からの個人的なメッセージを尋ねることに決して腹を立てることはありません。私たちの信仰の父であるアブラハムが、信仰による私たちの義認に関して、ソドムにいる親戚を救うよう神と議論したように (創世記 18. 27)、27 アブラハムは答えた。

塵あくたにすぎないわたしですが、あえて、わが主に申し上げます。また、マリアのように、あたかも神がすでに与えてくださった以上の信仰や理解を持っているかのように神に答えないでください。私たちは多くの疑問があるかもしれませんが、神に同意することに決めました。なぜなら、私たちの信仰は私たち自身ではなく神にあるからです。

この要点で私が何を意味したかを次の節で見っていきます。(v. 37) で天使ガブリエルは、永遠に信仰の鐘を鳴らす聖書の一節を宣言します。「神にとって不可能なことは何もないからです。」 マリアは、これが神の天使であり、彼女への神のメッセージであると信じているので、(38 節/NKJV) でガブリエルにこう言います。38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。しかし、メアリーはすぐに、あるいはできるだけ早くエリザベスを訪ねに行きました。天使たちが歌い、飼葉桶でのイエスの誕生を羊飼いたちに宣言した後のことを覚えているかもしれません。彼らは自分の目で確かめるために、急いで「調べて」みました。

(ルカ 2.15) : 15 御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。

要点 #2

許しが注がれた十字架の歴史のこちら側に、聖霊が注がれたペンテコステのこちら側に、神の御言葉が注がれた祈りの集い聖書の正典のこちら側に生きている私たち。将来の世代のために成文化されました... 1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。(ヘブライ人への手紙 11.1)。しかし、神がご自分の僕たちを、彼らが知っている他の使命とは比べものにならない、あるいはなじみのない使命に遣わすとき、彼らの信仰を強めるために奇跡的なしるしや不思議を与えることをためらわないようです。マリア、そしてモーセにとっても同様に、イエスの母となるという、人間としてのユニークかつ特異な使命はこれでした。そしてモーセ、救出者イスラエルへの人間の道具。

具体的な証拠やしるしに関しては、羊飼いたちが主の天使たちによる主からのメッセージを確認するために飼葉桶を求めたことがわかります。今、メアリーは、いとこのエリザベスにも同じことをするよう求めています。

ゼカリヤとエリサベツの家に入った後、読書(ルカ 1.41 ~ 42/NKJV) 41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリサベツは聖霊に満たされ、42 声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。

43 主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんとという光栄でしょう。44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。45 主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。そしてメアリーはこう言いました。

...OIC の友人の皆さん、メアリーが有名なマニフィカトを始めているので、私は説教のギアを別の文化に変えるかシフトすることにしました。覚えているかもしれませんが、クリスマスの日には私は次のように宣言しました。イエスが地球に滞在していた当時でさえ、イスラエルは間違いなく日本と同様、「東洋の制度の固定的な性格」を持った東洋社会でした。(イーストン聖書辞典) 私は「歯車」を、神の言葉の真理の中ではなく、ルカによ

るイエスの福音書の中でイエスの誕生の記録の中で実際に人々が語った、人々と神の元のヘブライ語の名前に変えます。イエス誕生時のイスラエルの東洋文化の豊かさと独自性は、映画『キリスト降誕物語』で非常によく表現されていました。この文化的背景の一部は、私が（ルカ 1.46）から始まるユダヤ教全聖書（CJB）を使用することで感じられるかもしれないと思います。

46 そこでミリヤムは言った。

「私の魂はアドナイを拡大します。

47 そして私の霊は私の救い主である神を喜びます。

ミリヤム（マリア）は信仰を強めるのに十分なものを見てきました。もちろん、彼女には天使ガブリエルの言葉に従って行動するという信仰がありました。しかし今、彼女は「私は信じています、そして私は知っていることを本当に知っています」と言える信仰の地点に達しました。そのような信仰に対して、疑いは醜い頭をもたげ始めることさえできません。こうして彼女は、主（アドナイ）の偉大さを讃美したり称賛したりする心の奥底の魂と、（47節）救い主である神を喜ぶ魂を表現しています。彼女は旧約聖書の聖人のような救いの信仰を持っていました。これは神への信仰でしたが、すべての人々の救い主である待望のメシア、イエスを待ち望んでいたのです。さて、メシアは彼女自身の体から生まれることになっていました。しかし、彼女は、すべての人々と同様に、ヘロデ王とカエサルのイスラエルに対する圧制だけでなく、罪から解放されるために、十字架上で罪のための神の犠牲を受け入れなければなりませんでした。

47 そして私の霊は私の救い主である神を喜びます。

48 使用人の女の子に注目した人

彼女の謙虚な立場で。

想像してみてください。－これからは、あらゆる世代が私を祝福者と呼ぶでしょう。繰り返しますが、ミリヤムは自分にこの使命が与えられたことに完全に圧倒されています。処女から生まれるメシアの約束（イザヤ書 7.14）以来、イスラエルの多くの若い女の子がこの榮譽を想像していました。

それゆえ、主御自身があなたにしるしを与えられます。見よ、処女がみごもって男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶでしょう。（ルカ 1.48）で彼女がコメントしたとき－想像してみてください。－これからは、あらゆる世代が私を祝福者と呼ぶでしょう！彼女は、他の人が想像していたものを実際に経験していることに今でもショックを受けています。

朗読（49-50節, CJB）49 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、50 そのあわれみは、代々限りなく主をかしこみ恐れる者に及びます。

マリアは神について自分が知っていること、つまり力強さ、聖さ、慈悲深さを公言しますが、それは神を畏れ敬う人たちにだけです。

さて、次の聖句では、神の性質、性格、力に関しては正しいものの、ローマとその傀儡ヘロデ王の足元ですべてのイスラエル人が感じていたことに焦点を当てたマリアの普遍的な見方が見られます。この視点は、イスラエルの聖書の歴史と、イスラエルを取り囲む物理的な敵である多くの圧制政府からの神の保護を信じた結果でした。今、エルサレムのすべての人々と、そしてイエスが旅した限りのように、ユダヤ人たちは世の王たちが終末に裁

かれた後、王としてメシアへの一步を踏み出すよう聖霊に誘われています。イエスを十字架につけたユダヤ人の多くは、その一步を踏み出すことができなかつたと考えて間違いないでしょう。聖霊が何千人ものユダヤ人に自分たちの罪を確信させ、神の子イエスを十字架につけたことに対する悔い改めの心を聖霊がもたらしたことで、神の憐れみが再び実証されました。聖書は彼らが生まれ変わったことを教えています。この驚くべき啓示と悔い改めは、第一回ペンテコステの日にペテロが説教したときにエルサレムで起こりました。(使徒 2.36-37)

36だから、イスラエルの全家は、この事をしかと知っておくがよい。あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになったのである」。37人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と言った。

要点 #3

モーセは神と友人として、面と向かって話し合っていました。彼の永遠は、アブラハムが持っていたのと同じように、旧約聖書の信仰によって確保されました。イスラエルを救い出すという使命に沿ってモーセを励まし、栄光への歩みを促す多くの目に見えるしるしや不思議が込められています。

マリアは神と親密な関係を持っており、大天使ガブリエルとも直接会っていました。しかし、ミリヤムは旧約聖書の信仰に対して、さらにユニークな課題を抱えていました。彼女は、最初にすべての人間を罪とサタンの圧制から解放するために来られた真の救世主とともにイスラエルを解放してくれる救世主に対するユダヤ人の希望を脇に置かなければなりませんでした。

ここにいる全員が、世俗的な勝利だけを求める希望から、イエスの十字架で私たちのために勝ち取られた永遠の勝利への一步を踏み出したことを祈ります。

(ルカ 1.51-55)を見ると、多くの聖書翻訳がマリア(ミリヤム)の「壮大」を詩として示していることに注目します。それはまさにダビデの詩篇のようなものだからです。

(51)主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、52権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、53飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさい。54主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、55わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とをとこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

彼はその腕で偉大な行為を行ってきました。その中には密かに誇り高い者たちを追い払うことも含まれます。支配者や王を倒した。貧しい者を育て、飢えた者に食事を与え、富める者を追い出した。これらの偉大な神の御業は、マリアが聖書から信じた神の肉体的な行為、そして今ではヘロデ王の狂気からの救いに焦点を当てているのかもしれませんが。確かに、聖霊はグノーシス主義の霊ではありません。「神は神の僕イスラエルの役割を果たしました」と、神が神の民を物理的に解放し、食料、避難場所、平和を含む安全な場所に住まわせるという約束を守っていることを強調した。これらすべての約束は、イエスの誕生当時、イスラエルでは実際には経験されていませんでした。しかし...続きを読んでみ

ましょう...

「彼が私たちの先祖たちに約束した慈悲 55 を心に留めて、

アブラハムとその子孫に永遠に。」 マリアによる神への詩的な賛美のこの終わりは、すべての正しい考えを持つ旧約聖書信者の「黄金の基準」または目標であるアブラハム（アブラハム）の信仰に敬意を表します。言い換えれば、イスラエルは度々主を裏切っていましたが、それでも神はアブラハムへの約束を尊重されました。

同時に、マリアの信仰は、聖霊が地上のイスラエルを超えて、王イエスのもとにある永遠のイスラエルに向けて新しい信仰の種を蒔くための肥沃な土壌を作ったと私は信じています。彼女の信仰が何を示していたとしても、彼女の赤ん坊がローマとヘロデ王のような不敬虔な支配者たちを追い出すか、それともイザヤ書 11 章 6 節で約束された完全な平和のどちらかである。6 狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。彼女の詩の最後の言葉は、アブラハムのような彼女の信仰の心を示しています。この信仰は、メシアの統治イスラエルと全地球に対する神の「すでに、そしてまだ」の願望と区別するための肥沃な土壌でした。したがって、私たちは彼が私たちの先祖、アブラハムとその子孫に永遠に約束したことを（ルカ 1. 55）に見ることができます。」

よろしければ、メアリーは赤ちゃんの使命や人生の使命にシフトしましたか？彼女は間違いなく、アブラハム（アブラハム）の子孫または家系に対する神の約束について永遠に語りました。

マリアがイエスの母として歩む途中のある時点で、彼女の信仰の焦点がイスラエルという国家の救い主から人類の救い主、さらには彼女個人の救い主へと移ったことは聖書から明らかです。彼女の変化は聖書から明らかです。聖書には、家族がナザレに帰る中、まだ幼いイエスがエルサレムの聖なる神殿に留まった様子が記されています。ジョセフとマリアはイエスがいないことに気づいたとき、おそらくその旅行者グループの多くの家族の中にイエスがいると思って引き返しました。イエスを見つけたとき、彼らはすべての愛情深い親がするように反応しました。

（ルカ 2. 48-50/NLT）

48 両親はこれを見て驚き、そして母が彼に言った、「どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんなさい、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです」。49 するとイエスは言われた、「どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか」。50 しかし、両親はその語られた言葉を悟ることができなかった。

マリアがイエスの言いたかったことを確かに学んだことは確かです。おそらくそれは、11 人の真の使徒の信仰と同様に、イエスの復活ではなかったのかもしれませんが。イエスの追従者の中に、マリアがエルサレムで父なる神の約束、力ある聖霊を待っているのが見えます。彼女は、他の人たちと同じように、赤ん坊の男の子の命令に従っていました（使徒行伝 1. 4-5/NIV）。

4 ある時、イエスは彼らと一緒に食事をしていました、次の命令を与えた。5 ヨハネは水でバプテスマを受けましたが、数日後には、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるでし

よう。』

マリア（ミリヤム）の名誉とあらゆる世代にふさわしい祝福は、息子の磔刑の十字架のふもとにある彼女の立場を変えることはありませんでした。神の足元の地面は、すべての人にとって、罪を犯して神の栄光を受けられないのと同じレベルです。（ローマ人への手紙 3. 23）すべての人は神に信頼を置かなければなりません。

そして、（使徒行伝 1. 12-14/NIV）には、イエスの弟子たちの忠実なグループの中にマリアがいるのが分かります。

12 使徒たちは、「オリーブ畑」と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近く、安息日にも歩くことが許される距離の所にある。 **13** 彼らは都に入ると、泊まっていた家の上の部屋に上がった。それは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、フィリポ、トマス、バルトロマイ、マタイ、アルファイの子ヤコブ、熱心党のシモン、ヤコブの子ユダであった。 **14** 彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。

要点 #4

聖霊だけが神の憐れみと恵みを適用して、罪人が聖人になるための歩みを導くことができます。聖霊だけが、聖徒を栄光への歩みに導き、その信仰の歩みの間、聖徒をイエスの近くに保つことができるのです。古い歌の祈りのように：イエスを送ってくださった神に感謝します

イエス様、来てくれてありがとう
聖霊様、教えてくれないでしょうか
彼の素敵な名前についてもっと詳しく

祈りましょう：

参考文献

CJB - 完全なユダヤ教聖書、著作権 © 1998 by David H. Stern。

EBD - Easton's Bible Dictionary または The Illustrated Bible Dictionary、トーマスネルソン、ロンドン 1894 年。パブリックドメイン

NIV - 聖書、新国際版®、NIV® Copyright ©1973, 1978, 1984, 2011 by Biblica, Inc.®

KJ21 - 21 世紀のキング・ジェームス版 (KJ21)

著作権 © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.